



森と海の自然科「川と街道を訪ねてーNo4」

神崎川と旧西尾家(吹田文化創造交流館)を訪ねて(記録)

1. 日時: 平成29年6月29日(木) 9時30分
 2. 集合場所: 大阪モノレール南摂津駅
 3. 参加者: 18名 (浅野、大石、金戸、児玉、坂根、藤井、秦、前野、倭、山本、上條、金高、山下、藤本、乾、伊藤、日景、莊村、順不同)
- 今回は神崎川の最上流から安威川との合流部までの観察、合わせて旧西尾家と浜屋敷を見学した。



モノレール南摂津駅構内に展示されている井路舟(米等の運搬船)を見分してから、今も残っている井路沿いに歩いて淀川本流の宮ノ下渡し跡に至る。(現在の井路は普通の排水路であるが、昭和40年頃まで人や物資などを運ぶ重要な水運ルートとして使われていた。井路の読み方は「いじ」と「いろ」どちらでもよいとのこと。)奈良時代末に桓武天皇の命により、淀川下流域の洪水対策のため和気清磨呂が開削工事を行なったと伝わる一津屋樋門に至り、淀川本流と神崎川への導水路の分岐点に立つが、歴史のロマンを特に感じなかった。



井路舟の実物展示



一津屋樋門



淀川本流から神崎川導水路への分流地点

分岐点から淀川の堤防を少し下り、西行法師と遊女妙の和歌の贈答で有名な江口の君堂を経て、江口橋の袂にあるレストランガストで昼食を取る。食後はしばらく神崎川導水路沿いの河原を自然観察しながら歩く。ワルナスビなど害のある外来植物が所々に繁茂していた。ほどなくして神崎川導水路と安威川の合流点に至る。人工運河の導水路に比べ安威川の流れは豊かで悠然としていた。



ワルナスビ



豊かな安威川に左から神崎川が合流



合流地点で記念撮影

安威川を北へ渡った袂にある吹田の渡し跡の史跡案内板の地図で現在地を確認しながら、吹田市の歴史建造物である旧西尾家住宅と浜屋敷を目指し、蒸し暑いなか住宅の密集する迷路のような小道を抜けて行く。どちらも、江戸時代吹田村の庄屋屋敷であるが、明治以降に大規模に建て替えられた旧西尾家住宅のレトロモダンな洋館が印象的であった。両施設のボランティアガイドさんの熱心な説明を聞きながら、施設内を見学して今日の行動予定を終える。



吹田の渡し跡の案内板を熱心に見入る



旧西尾家住宅前で記念撮影



浜屋敷玄関先の大蘇鉄

その後、浜屋敷の茶店でみんなで一緒に食べた“かき氷”は汗がスーとひき、とても美味しかった。茶店でしばらく休憩をして16時30分浜屋敷の門前で解散する。

写真: 坂根 記録: 莊村